



【報道関係各位】

2020年10月29日
一般財団法人 日本気象協会
ミネベアミツミ株式会社

**日本気象協会とミネベアミツミ、
スマートライティングデータを活用し、気象情報の予測精度向上を目指す
～新たなスマートシティソリューション展開に向け、連携して実証実験を実施～**

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）とミネベアミツミ株式会社（本社：長野県北佐久郡、代表取締役：貝沼 由久、以下「ミネベアミツミ」）は、「スマートライティング^{※1}」のデータを活用し、気象情報の予測精度向上を図る取り組みを連携して進めています。このたび、具体的な取り組みのひとつとして、2020年9月から2021年3月までの期間にて、日射量・太陽光発電出力予測の精度向上に関する実証実験を開始しました。

◆背景

自治体などが所有する道路灯や街路灯などをインテリジェント化・IoT化した「スマートライティング」は、LED化や、周辺環境に応じた照明の調光などにより、省エネ・CO2排出削減を実現する屋外照明技術です。スマートライティングのセンサー情報をリアルタイム分析することで、気象情報の予測精度向上など、さまざまな利活用が想定されています。スマートライティングは、スマートシティ^{※2}でのエネルギー最適化の取り組みとして、地方自治体への普及が期待できます。

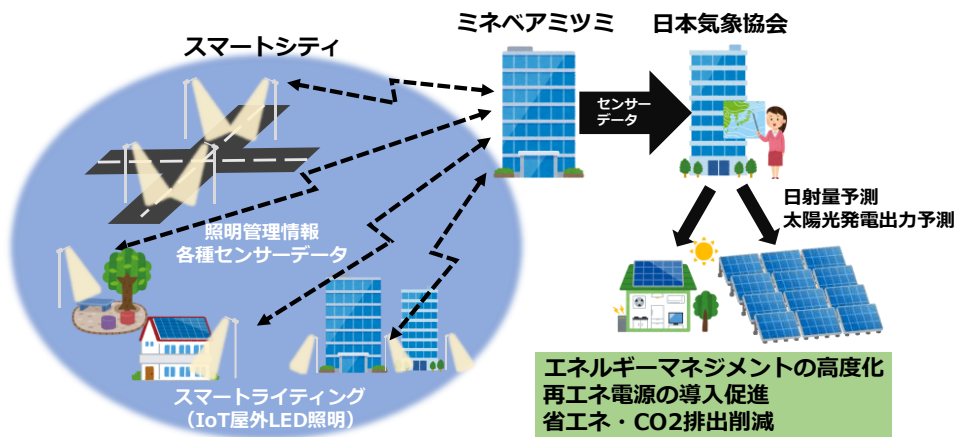
◆連携の目的

日本気象協会が持つ高度な気象予測技術と、ミネベアミツミが導入を進めるスマートライティングの融合により、新たなスマートシティソリューションの展開を目指します。

日本気象協会は、独自に開発した高精度な気象予測技術を有しています。この技術にスマートシティ内のスマートライティングデータを活用することで、さらなる予測精度の向上が期待できます。

ミネベアミツミは、独自に開発したスマートライティングをスマートシティのソリューションとして展開しています。このスマートライティングは、照明管理だけではなく、付属のセンサーから気温・照度などのデータをリアルタイムに収集することが可能です。スマートライティング普及により、スマートシティ内の面的に詳細なセンサーデータを収集することができます。

日本気象協会とミネベアミツミは、これらの取り組みにより、高度なエネルギー管理が可能なスマートシティや Society5.0^{※3}の実現に貢献していきます。



連携のイメージ（例：日射量・太陽光発電出力予測の高度化）

◆実証実験の概要

日本気象協会とミネベアミツミが連携する取り組みのひとつとして、2020年9月から2021年3月にかけて「スマートライティングデータを活用した日射量予測の精度向上に関する業務」での実証実験（以下、「本実証実験」）を実施します。これは、環境省が公募した「令和2年度地域の既存インフラ（街路灯等）を活用したデジタルデータ基盤確立方策の検討・検証委託業務」について、代表事業者である株式会社三菱総合研究所から受託したものです。

本実証実験では、ミネベアミツミが独自開発した「無線機能付き高効率LED道路灯（写真1）」と「環境センサー（写真2）」を組み合わせたスマートライティングを用いて実証実験を行います。ミネベアミツミがデータ収集を行い、日本気象協会がデータの分析および日射量予測の精度向上の可能性を検証します。

なお、ミネベアミツミと日本気象協会は、従来からこの環境センサーをIoT小型気象センサーとして活用するための検討を進めています。開発段階の試作機を用いて野外での観測や長期観測試験、精度検証を行い、良好な結果が得られることを確認しています。



写真1：無線機能付き高効率LED道路灯



写真2：環境センサー

※1：スマートライティング

道路灯や街路灯などをインテリジェント化・IoT化する屋外照明技術。

※2：スマートシティ

都市の抱える諸課題に対して、ICTなどの新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営など）が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区。

※3：Society5.0

情報社会（Society4.0）に続く未来社会の姿として、政府の第5期科学技術基本計画で提唱された未来社会の姿。

以上

本件に関する報道機関のお問い合わせ先

・一般財団法人 日本気象協会

広報室 TEL：03-5958-8147 FAX：03-5958-8144 広報室メールアドレス jwapr@jwa.or.jp

・ミネベアミツミ株式会社

広報・IR室 TEL：03-6758-6703 FAX：03-6758-6718 広報担当メールアドレス koffice@minebeamitsumi.com